

平成26年  
(2014年)

夏号

# 大津・南部の農業

発行

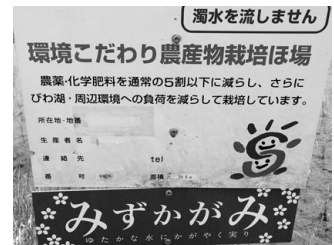
滋賀県大津・南部農業農村  
振興事務所農産普及課  
草津市草津三丁目14-75  
TEL 077-567-5421~5423  
FAX 077-562-8144  
メールアドレス ga35@pref.shiga.lg.jp  
発行責任者 古谷 博幸

この印刷物は古紙パルプを配合しています。

目次

- 水稻新品種「みずかがみ」の栽培が本格的にスタート！
- これからの水稻作業 ポイントは水管理
- モリヤマメロンの新たな生産者育成に取り組んでいます！
- 6次産業化に取り組んでみませんか

## 水稻新品種「みずかがみ」の栽培が本格的にスタート！



滋賀県生まれ、期待の新品種「みずかがみ」の栽培が本格的にスタートしました。

「みずかがみ」は県の農業技術振興センターで育成された品種で、暑い時期に稔っても外観品質や味が良いことが特長です。

昨年度、大津・南部管内では約16haの面積で栽培されました。

品質（等級比率）が他品種に比べて良かったことから、今年度の栽培面積は約95haと大幅に拡大しました。栽培面積の拡大にともなって生産量が増えることから、県外への販売が積極的に展開される予定です。

25年産「みずかがみ」が（一財）日本穀物検定協会より「特A」評価を受け、この4月から航空会社の機内食に採用されるなど、各方面から注目されている品種です。

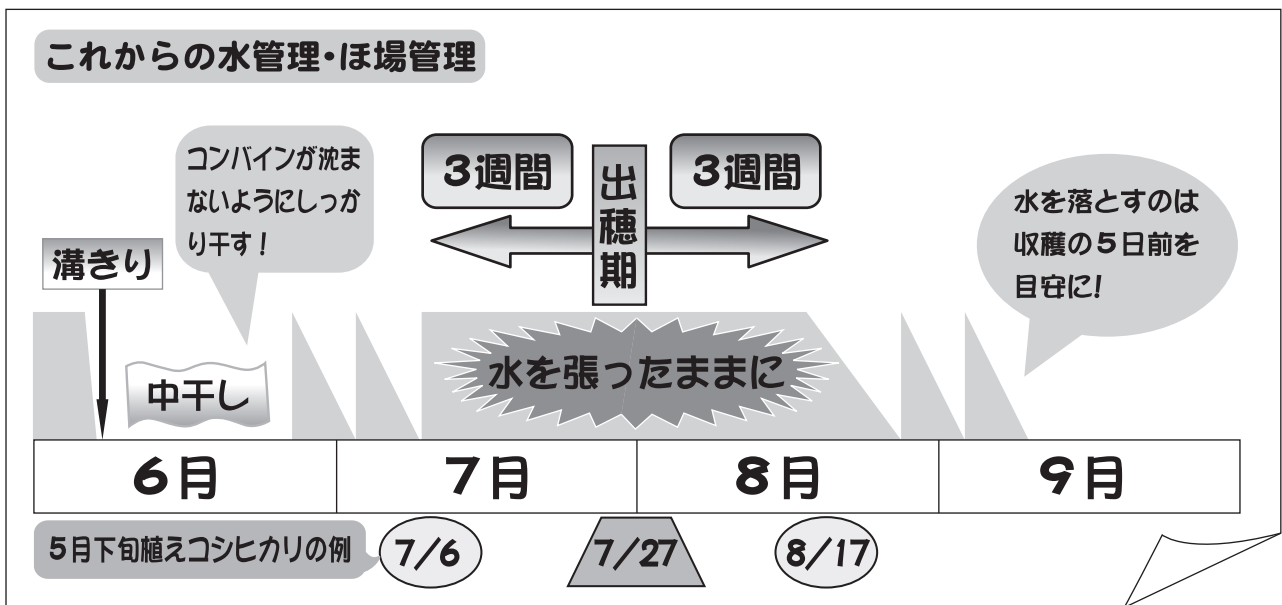
当課では、おいしい「みずかがみ」が安定して生産されるよう、栽培者のみなさんをサポートしていきます。

# これからの水稲作業 ポイントは水管理！

## 1. 出穂前後の湛水管理で、稲のカドミウム吸収を抑制

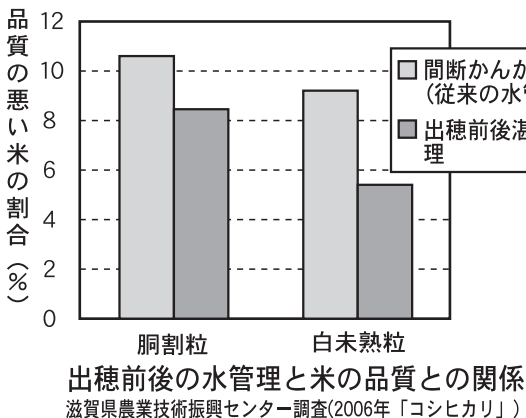
食品衛生法における米に含有されるカドミウムの基準は0.4ppm以下です。水稲の出穂前3週間、出穂後3週間の計6週間に湛水管理を行うことによって、稲のカドミウムの吸収を減少させることができます。

湛水管理を行う際は「継続して」「土面が露出しないように水を張る」ことがポイントです。3～5cmの水深が維持できるように管理してください。



## 2. 出穂前後の湛水管理で、米の外観品質を高めます

出穂前後の湛水管理は、胴割粒や白未熟粒などの発生を少なくし、米の品質を向上させる効果があります。



**注意!**

田んぼに水を張るときは、水尻から水があふれ出ないように注意してください。

「かけ流し」は絶対にしないでください。

# モリヤマメロンの新たな生産者育成に取り組んでいます!

## 1. モリヤマメロンの生産振興をめざして

モリヤマメロンは直売所で朝早くから長蛇の列ができる守山市の特産品ですが、近年、高齢化や連作障害などにより栽培面積が最盛期の半分程度まで減少しています。

消費者ニーズに応えモリヤマメロンのブランド力や産地を維持発展させるため、昨年4月より新規生産者の育成が始まりましたので概要を紹介します。



## 2. トレーニングハウスを利用した研修

JAおうみ富士が、おうみんち東側に「トレーニングハウス（新規栽培者向け実践研修ハウス）」として375㎡のビニールハウス2棟を建設し、研修生への栽培技術指導とハウス管理のサポートをされています。

守山市は、「モリヤマメロン新規就農者育成支援事業」を新設して研修に要した費用の一部を助成し、当課はメロンの基礎知識や基本技術習得のための講義を主に担当しています。

また、メロン部会からは、生産者の先輩として、効率的な作業の進め方や甘くておいしいモリヤマメロンを作るためのノウハウをアドバイスいただいています。

このように、メロン部会も含めた関係機関が連携し、役割分担して進められています。



トレーニングハウスの前で青空講義

## 3. 研修生がメロン部会に加入、新たな生産者として期待!



昨年の第一期生は5名で、うち2名がこの春よりハウス3棟(740㎡)でメロン栽培を開始され、メロン部会にも加入されました。

今年3月からは第2期生4名がトレーニングハウスで、週1回程度の集合研修と毎日のハウス管理などの実践研修に励んでおられます。

順調に生育すれば7月上旬に収穫となり、直売所での販売も予定されています。

# 6次産業化に取り組んでみませんか

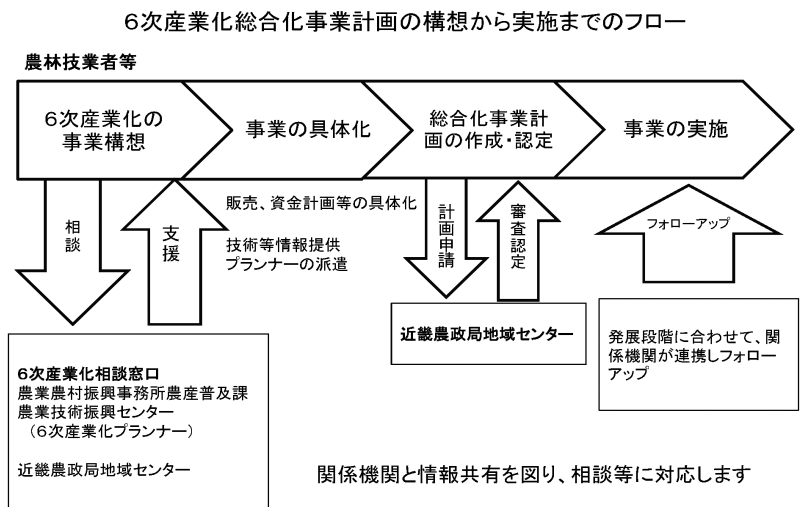
## 1. 6次産業化の目的

6次産業化は農業者自らが、地域の農林水産物や資源を活用し、所得向上や雇用の拡大による経営発展を目指す取組です。1次産業である農林漁業、2次産業である製造業、3次産業である流通・小売業の一体化や連携により、新たな付加価値を生み出すことが目的です（1次×2次×3次＝6次産業）。農林漁業者による加工・販売分野の取組や、農林漁業と2次、3次産業との連携による新たなアグリビジネスの展開を目標としています。

## 2. 6次産業化に取り組むには

6次産業化に取り組むためには、「何をしたいのか」を整理し、事業計画を具体化する必要があります。農産普及課では、関係機関と連携し計画の具体化に向けた技術情報の提供等の相談を行っています。必要に応じてマーケティング、加工技術、販路開拓、デザイン等の専門家である6次産業化プランナーによる個別相談の窓口として、生産者の皆さんをサポートします。

総合化事業計画は農業者等が生産および加工または販売を一体的に行おうとする計画をまとめたもので、認定を受けると計画の実施に必要な機械や設備等の整備にかかる費用支援等が受けやすくなります。別途、融資や補助事業を受ける場合は審査があり、計画書の申請時期は年3回で、近畿農政局地域センターが窓口となります。



## 3. 6次産業化の取組事例 (株) 横江ファーム

草津市北山田地域で軟弱野菜の周年栽培を行っている(株)横江ファームでは、小松菜の調製段階で外される外葉や規格外品を活用した加工品開発に取り組まれています。小松菜の加工品の実態調査を行い、甲賀市の加工業者と連携して小松菜ペーストに加工し、業務用および家庭用としての販売を計画しています。

